

# Q

子どもが何かにつけて、反抗的な態度をとります。どう対応したらよいでしょう。

# A 思春期

思春期になると、体の成長に心の状態が追いついていかなくなります。その時期に、お子さんが自立していく中で、心の中の摩擦が言葉や態度で保護者へ向けられてしまい、反抗的になってしまうことがあります。

反抗的な態度は、保護者に向けられることが多く、友だち向けられることはあまりありません。

お子さんが反抗的な態度をとって、暴言を吐いた時に、同じような言葉で返しては、反抗が増すばかりです。「イラッ」とすることもありますが、大人の余裕をもって、対応したほうが効果がでます。「言いたいことはよく分かったよ。でも、〇〇〇って言い方をするといいね。」というように、理解を示しながら、注意するところも示し、バランスよく対応すると、お子さんに気持ちが伝わります。

保護者自身ができていることを、話したとしてもお子さんは信頼しません。自分が発した言葉が、子どもから返ってくるだけです。自分の発した言葉には責任を持って、範を示すことも大切です。また、できていないことに「一緒に頑張ろう」という仲間意識を持たせることも効果があります。

また、この時期は口数が減ったり、ぶつかったりしますが、保護者の言葉は案外ちゃんと聞いているものです。「おはよう」「いってらっしゃい」という挨拶や、ちょっとした行いに「ありがとう」などと伝えると、自分のことをちゃんと好きでいてくれているということが伝わります。お子さんがコミュニケーションを拒んでも、保護者は、必要な声をかけ続けるとよいでしょう。

なかなか忍耐は必要になりますが反抗的な態度はずっとは続きません。大人になろうとしている我が子を、小さい頃のようなべったりから少し子どもとの距離をおいて、温かい目で見守っていきましょう。